

小学校 第3学年  
A表現（1）イ、（2）イ B鑑賞（1）ア

題材名

言葉から形・色



実践校  
池田町立宮地小学校  
授業者 中村 友持  
実践時期 後期  
全8時間

つながりを生かす

○題材同士のつながりを本題材に生かしている。水彩絵の具をはじめて扱う「絵の具+水+筆=いい感じ」において、水彩絵の具の基本的な使い方を知ることができた。その際に、具体的なものを描くのではなく絵の具と水の量との関係や筆のストロークの速さで生まれるマチエールの違いを体験することを目的とした。また、にじみ、重色、ドライブラシ等の絵の具の技法も体験することができた。さらに、全体の構成という点で、主張色をどの色味でまとめ、アクセントとしてどんな反対色を配置するとよいかを構想することも行った。これらの試しをもとに、本題材では、「ものを描く」ことになる。想像したことを効果的に表すためには、どんな硬さの絵の具をどの場所に使えば、描写することができるのか。どんな技法を使えばより臨場感をもった描写をすることができるのか、今までの経験値を引き出しとして生かせる題材である。また、国語科とつながりという点で、文章を読んで自分なりの考えをまとめたり、思いを広げたりすることは、国語科の学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」C読むこと」につながる。

題材の流れ

第1・2時 導入

詩や物語から感じたことや想像したことを基に、あらわしたいことを考え、複数枚以上大まかにアイデアスケッチをする。

第3・4時 展開1

想像を広げながら、表したいことに合う表し方を考えデッサンする。  
・タブレットを利用し自分の絵に利用できそうな画像を集める。その画像を参考に綿密にデッサンする。

第5～7 展開2

表したいことに合う彩色の仕方を工夫して描き進める。

第8時 振り返り

表したことや表し方の工夫を味わいながら鑑賞する。

一番心を動かされたのは、この場面だ。登場人物や物をどのように配置すれば、伝わるだろう。

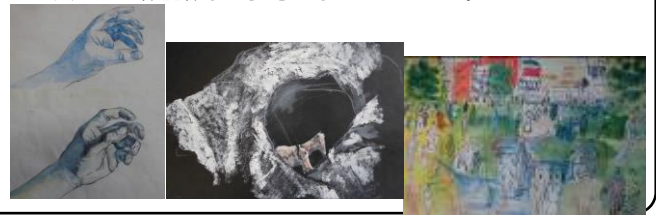
ポイント1

画面上の主役を配置するときの構図のポイントとして画面に対角線を引き、主役を配置するように指導する。絵の視点誘導を意図的に行うために、主役と脇役とを視点の循環するように配置する。また画面のどの位置にどの大きさで描写すると思い合うか3枚以上描き吟味できるようにした。



全体が寒そうな夜の雰囲気だから、暗い抑えた色の組み合わせにしたいな。

ポイント2 写実的に表す場合、重色しながら描写していく。白い画用紙に描く場合、にじみやブラシなどの効果を生かした表現をしていく。また、デュフィーやマティスの作品を見せ色彩とデッサンが独立した作品作りの参考になるようにした。



作品例「絵の具+水+筆=いい感じ」 「言葉から形・色」



授業を終えて

水彩絵の具を使い始めた段階の絵の具の基本的な扱い方に加え重色、ドライブラシ等のテクニックや構図等の「ちから」の系譜を意図的に指導すれば、思いを込めた良質な作品が出来上がると実感している。

